

# 社会福祉系学会連合ニュース (2017年3月号)

## 1. ご挨拶

日本社会福祉系学会連合会長 黒木 保博

日本社会福祉系学会連合は2006年に組織化されています。今年で12年目を迎えました。これまでの主な活動は、1)日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会への協力、2)日本の社会福祉系学会の活性化、交流と連携、3)研究条件向上のための社会的活動、等です。

東日本大震災以後、被災地への福祉支援と地域福祉の課題、あるいは震災復興のあり方、そして福祉専門職による支援など、被災者支援や震災復興に関する調査に力を入れてきました。

昨年12月も「災害福祉研究—災害予防、対応時における多職種連携のあり方—」をテーマにして公開研究会を開催しました。本号には、この公開研究会報告が掲載されていますので、ぜひお読み下さい。発題を引き受けていただいた笹岡眞弓氏(文京学院大学・教授)、小早川義貴氏(国立病院機構災害医療センター福島復興支援室・医師)、奥田博子氏(国立保健医療科学院・保健師)、菅原由紀枝氏(高寿園・管理栄養士)、司会者 小林良子氏(日本司法福祉学会)に改めて感謝致します。

公開研究会での開会挨拶でも述べたことです。この研究会に参加することもあり、12月初旬、京都刑務所で開かれた防災訓練に参加しました。刑務所内に住民を入れて行う防災訓練は全国初めてでした。実は熊本地震時に、熊本刑務所が避難施設として使われたことから、このような防災訓練を実施することになったとのことでした。この防災訓練でも他職種連携が取り組まれていました。刑務所、府警、消防署、消防団、上水道局、建設局土木管理、日本赤十字、自衛隊等が次々に連携して緊急車両のための道路確保、給水確保、簡易トイレ設置、診療所設置、さらに倒壊家屋を想定した救助活動、炊き出し訓練、等が繰り広げられていきました。

今回の公開研究会でも発題者から指摘されていたことですが、この訓練でも普段からの他職種間の相互の意思疎通をはかっておく必要が重要と思われました。また、救助の際の「専門用語」の共通化をも、早急に検討すべき課題となると思われました。ソーシャルワーカーはどんな役割を果たして行くのかについても、具体的検討が必要のようです。

最後に、この学会連合においても、加盟学会相互の意思疎通を高めるべく情報交換をもっとはかり、今年度の諸活動に取り組んで行きたいと思えます。

\*\*\*\*\*

## 2. 公開研究会報告(2016年12月17日開催)

### 「災害福祉研究—災害予防、対応時における多職種連携のあり方—」

李 恩心(日本社会福祉系学会連合 運営委員)

日本社会福祉系学会連合では、2011年から公開研究会の開催などを通して災害福祉に関する実践報告や災害福祉学の構築に向けての議論を深めてきました。昨年4月の熊本地震の際には、東日本大震災後の被災地支援活動などのこれまでの経験を活かすことができた部分もありましたが、一方で福祉関係者による支援活動への課題が多く残されています。とりわけ、福祉関係者が医療スタッフや行政担当者、ボランティアなど多職種と連携して活動を続けてきたこれまでの実践活動について検証する必要性が求められます。このような背景を踏まえ、日本社会福祉系学会連合では、今年度も引き続き災害福祉をテーマに、これまでの災害時の様々な実践や研究を振り返り、今後の災害予防や対応における多職種連携のあり方を検討することを目的に、公開研究会を開催(2016年12月17日、日本大学文理学部キャンパス)しました。

今回の公開研究会は、日本社会福祉系学会連合運営委員の小林良子氏の司会のもとで、文京学院大学の笹岡眞弓氏、国立病院機構災害医療センター福島復興支援室の小早川義貴氏、国立保健医療科学院健康危機管理研究部の奥田博子氏、岩手県陸前高田市特別養護老人ホーム高寿園給食サービス部長の菅原由紀枝氏によるご報告がありました。

まず笹岡眞弓氏には、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本大地震に次ぐ災害ソーシャルワークの系譜や MSW の支援活動について、詳細なご報告をいただきました。次いで、小早川義貴氏からは、災害医療と多職種連携というテーマで、医療と消防、警察との連携の現状及び島根県立中央病院救命救急科・島根大学医学部救急医学講座主催の「連携事業」の内容を中心に、各機関の互いの業務を理解し尊重することの重要性などについてご報告をいただきました。また、奥田博子氏からは、保健師の立場から考える災害福祉研究の視点として、災害時における行政保健師の役割を中心にご報告をいただきました。最後に、菅原由紀枝氏からは、管理栄養士の立場から、東日本大震災直後に特別養護老人ホーム高寿園内で行った避難住民への給食支援活動についてご報告をいただきました。

各報告後に設けられた全体討議の中では、災害時のソーシャルワーク機能としての後方支援の重要性や、住民の自然発生的な動きや組織に注目した連携体制づくりの必要性などに関する議論がありました。災害支援における「多職種連携」においては、一人ひとりの思いだけで持ち越すのではなく、各々の専門職の「思い」が尊重され、支援者間での有効な引き継ぎ体制のもとで、これまで「できていたこと」を組織的、継続的に関わることへの意義などが、改めて確認できた場になったのではないかと考えます。

\*\*\*\*\*

### 3. 加盟学会の2017年度学術大会日程

本連合では、加盟学会の2017年の学術大会等の情報を集約し、各学会の日程の設定がスムーズに行われるとともに、会員の方々が計画的に学術集会等に参加できるよう努めています。学術大会等の最新情報は加盟学会より情報をいただき次第、本連合のHPに掲載いたします。以下に日程の概要をお知らせいたします。

#### 【2017年度 加盟学会大会日程】

学会名	大会情報
社会事業史学会	大会日程：2017年5月13日(土)–14日(日) 開催会場：長野大学(長野県) テーマ：農村社会と社会事業の展開
日本医療社会福祉学会	大会日程：2017年9月9日(土)–10日(日) 開催会場：上智大学(東京都) テーマ：社会に還流する脳科学 そしてソーシャルワークの工夫
日本介護福祉学会	大会日程：2017年9月30日(土)–10月1日(日) 開催会場：岩手県立大学 滝沢キャンパス(岩手県) テーマ：災害と介護のこれから —被災地における介護が果たす役割—
日本家族研究・家族療法学会	大会日程：2017年8月18日(金)–20日(日) 開催会場：つくば国際会議場(茨城県) テーマ：対話の未来 Future of Dialogue
日本看護福祉学会	大会日程：2017年7月1日(土)–2日(日) 開催会場：西九州大学 佐賀キャンパス(佐賀県) テーマ：地域で最期まで支えることができる看護と福祉

日本キリスト教社会福祉学会	大会日程：2017年6月23日(金)-24日(土) 開催会場：弘前学院大学および日本基督教団弘前教会(青森県) テーマ：キリスト教社会福祉の視点—平和・共生・多様性の尊重をめざして—
日本子ども家庭福祉学会	大会日程：2017年6月3日(土)-4日(日) 開催会場：関西福祉科学大学(大阪府) テーマ：児童福祉法制定70年のあゆみ—過去から学び、未来につなぐ—
日本在宅ケア学会	大会日程：2017年7月15日(土)-16日(日) 開催会場：北星学園大学(北海道) テーマ：地域包括ケアにおけるセーフティ・マネジメント—人々と多職種の協働—
日本社会福祉学会	大会日程：2017年5月28日(日)(春季大会) 開催会場：明治学院大学 白金キャンパス(東京都) テーマ：教育と福祉における協働の論点を探る
	大会日程：2017年10月21日(土)-22日(日)(秋季大会) 開催会場：首都大学東京 南大沢キャンパス(東京都) テーマ：「包摂型社会」への提言—人びとの生の剥奪と再生—
日本司法福祉学会	大会日程：2017年9月1日(金)-9月4日(月) 開催会場：國學院大學 渋谷キャンパス(東京都) テーマ：近未来の犯罪学とその担い手たち～犯罪をめぐる学際的・学融的研究の体系化の可能性～
日本社会福祉教育学会	大会日程：2017年9月2日(土)-3日(日) 開催会場：龍谷大学短期大学部(京都府) テーマ：—
日本社会分析学会	大会日程：2017年7月29日(土)-30日(日)予定 開催会場：甲南大学(兵庫県) テーマ：—
日本職業リハビリテーション学会	大会日程：2017年8月25日(金)-26日(土) 開催会場：作新学院大学(栃木県) テーマ：—
日本精神障害者リハビリテーション学会	大会日程：2017年11月16日(木)-18日(土) 開催会場：久留米シティプラザ(福岡県) テーマ：未来へつなげるリカバリー～四半世紀を経て理想から実現へ～
日本ソーシャルワーク学会	大会日程：2017年7月22日(土)-23日(日) 開催会場：北星学園大学(北海道) テーマ：専門性／専門職性の越境
日本地域福祉学会	大会日程：2017年6月3日(土)-4日(日) 開催会場：松山大学(愛媛県) テーマ：ふるしき型地域福祉の実践～問題解決を目指した地域づくりとコミュニティソーシャルワーク～
日本福祉教育・ボランティア学習学会	大会日程：2017年12月2日(土)-3日(日) 開催会場：長野大学(長野県) テーマ：—
日本福祉文化学会	日本福祉文化学会 HP でご確認ください。 <a href="http://www.fukushibunka.net/">http://www.fukushibunka.net/</a>

日本仏教社会福祉学会	大会日程：2017年9月9日(土)-10日(日) 開催会場：種智院大学(京都府) テーマ：—
日本保健福祉学会	大会日程：2017年9月30日(土)-10月1日(日) 開催会場：和歌山県 JA ビル(和歌山県) テーマ：健康に活かす保健福祉の知

\*\*\*\*\*

#### 4. 加盟学会紹介(日本職業リハビリテーション学会／日本精神障害者リハビリテーション学会)

社会福祉系学会連合には、現在 20 の関連学会が加盟しています。本ニュースでは、順次、加盟学会の会員の方から当該学会の近年の動向を含めた紹介をさせていただきます。今回は、2016年5月29日から新たに運営委員を担当していただいている志賀利一先生(日本職業リハビリテーション学会)と田中英樹先生(日本精神障害者リハビリテーション学会)にそれぞれの所属学会について紹介させていただきます。

##### ●日本職業リハビリテーション学会●

##### 志賀利一 (日本職業リハビリテーション学会 運営委員)

日本職業リハビリテーション学会は、1971年に発足した「日本障害者職業リハビリテーション研究会」を前身とし、1990年に学会に改編した歴史を持ちます。学会改編の前後、職業リハビリテーションの分野では、大きな課題に直面していました。それは、ILOにおける「障害者の職業リハビリテーション及び雇用に関する条約(1983年)」の採択がきっかけでした。日本も関連法制の整備等に9年の時間を費やし、ようやく1992年にこの条約に批准しています。これにより、「障害のある人が雇用に就き、継続することを支える」「雇用により障害のある人の様々な条件が向上し、社会的統合を促進する」という、当学会の大まかな方向性も定まりました。

そして、わが国の職業リハビリテーションを取り巻く社会的環境は、その後10年少々経過した後に、激変しました。バブル経済が崩壊し、経済成長が10年以上停滞した頃から、障害者の雇用数が急激に増え始めたのです。理由として、企業における社会的責任やコンプライアンス重視の風潮が高まったこと、同時に労働・福祉・教育等の連携による多様な就労支援施策が展開されたことが影響していると考えられています。数字で振り返ってみます。国の公表数では、2016年6月時点で、雇用義務対象の民間企業(従業員50人以上規模)において474,374人、国や地方自治体等において66,335人の障害者が雇用されており、過去14年間この雇用数は増え続けており、特に民間企業ではこの間に約2倍に増えています。同時に、障害者雇用に関わる人事・労務担当者、各職場のトレーナーやメンターの役割を担う上司・同僚、職業生活の継続的な支援を担うソーシャルワーカー、障害者の職業選択に寄り添うカウンセラー等、職業リハビリテーションの目的に向けて活躍する人材も急激に増えました。職業リハビリテーションを取り巻く、量的な拡大環境に対応し、働く障害者の様々な質的な側面の向上が、学会としての新たな課題として浮かび上がってきています。

本学会では、職業リハビリテーションに関する科学的な研究・実践活動を通じ、わが国における障害者の職業リハビリテーションの進歩・発展に寄与することを目的に、年に2回の学会誌「職業リハビリテーション」の発行、さらに毎年全国各地で年次大会を開催等、各種活動を展開しています。また、これまでの学会の成果物として「職業リハビリテーションの基礎と実践／障害のある人の就労支援のために」を編集し、2012年9月に中央法規より出版しています。

雇用の分野の差別禁止と合理的配慮の提供が求められる今、雇用に就いている障害者の実質的な権利擁護につながる社会、さらに雇用に限らず多様な働き方が実現できる社会の実現に向けて、約700人の会員とともに今後も積極的に活動していきたいと考えています。

日本職業リハビリテーション学会ホームページ <http://vocreha.org/>

## ●日本精神障害者リハビリテーション学会●

田中英樹(日本精神障害者リハビリテーション学会 副会長)

本会は、3年間の全国研究集会の準備を経て、1995年10月に設立された。2017年11月16日(木)～18日(土)には、第25回全国学術研究集会久留米大会を迎える。結成当時は、精神障害者のリハビリテーションに関わる現場のスタッフ—精神科医、ソーシャルワーカー、作業療法士、心理技術者、保健師、看護師、職業リハビリテーション職などが多職種協働を旗印に結集した。主力の団体や機関は、公設リハビリ施設、精神保健福祉センター、保健所、精神科病院、地域障害者職業リハビリセンター、小規模作業所などであった。

20余年経った今日、会員も約1,100名となり、その構成も変化してきた。精神科診療所やデイケア施設、精神障害当事者も加わり、さらに大学や研究所などの研究教育機関の会員も参加してきたことで、多職種連携に加え、精神障害当事者や家族を含めた協働と交流の場になってきた。現在の学会のミッションは、「精神障害のある人々がすべて、ふつうの市民として、地域社会の中であたりまえに暮らしていくことができるようになる、そのために必要な活動を展開すること」にある。

本会は、精神障害者リハビリテーションの向上と会員相互の学術研究を目的として、様々な事業を展開している。主なものを紹介しておこう。

- 1) 全国研究大会の開催は、年1回、主に晩秋の時期に開催地を全国各地にお願いして実施している。技術や情報を普及させるために、研修会(不定期)やホームページ、会報の発行を行っている。
- 2) 学会誌「精神障害とリハビリテーション」は、年2回発行しており、通算41号となった。
- 3) 2008年からは、精神障害者リハビリテーションのあるべき姿を展望し、それに到達するための評価基準を満たした優れた実践に対して、実践の質の向上を図ることを目的に「ベストプラクティス」として表彰を行っている。
- 4) アメリカ連邦保健省薬物依存精神保健サービス部(SAMHSA)が発刊した、科学的根拠に基づく実践プログラム(EBP)の実施・普及のために、SAMHSAの承認を得て、4プログラムのEBP実施・普及ツールキット日本語版を出版している。
- 5) 故野中猛第4代会長の功績を記念して、2015年には優れた研究論文を顕彰する「野中賞」を設けた。

本会は、理事の若返りや若手研究者の育成、学際的な共同研究などの課題もあるが、会員の本学会に寄せるアイデンティティも高いのが特徴である。

\*\*\*\*\*

## 5. 加盟学会

### 【加盟学会一覧】

社会事業史学会	日本医療社会福祉学会	日本介護福祉学会	日本家族研究・家族療法学会
日本看護福祉学会	日本キリスト教社会福祉学会	日本子ども家庭福祉学会	
日本在宅ケア学会	日本社会福祉学会	日本社会福祉教育学会	日本ソーシャルワーク学会
日本社会分析学会	日本職業リハビリテーション学会	日本地域福祉学会	
日本福祉教育・ボランティア学習学会	日本福祉文化学会	日本仏教社会福祉学会	
日本保健福祉学会	日本司法福祉学会	日本精神障害者リハビリテーション学会	

日本社会福祉系学会連合事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター 日本社会福祉学会事務局内  
TEL 03-5937-0047 FAX 03-3368-2822  
E-MAIL union-jssw@kokusaibunken.jp  
URL <http://jaswas.wdc-jp.com/>